



火災

◆防火対策のポイント

火災は、不注意によるものがほとんどです。ほんのちょっとした油断が、命取りになります。

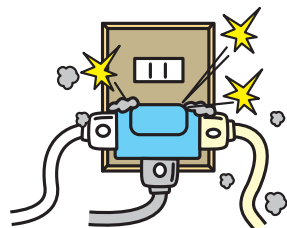
1 ストープ周辺はスッキリと

カーテンや洗濯物を近づけたり、紙類などはそばに置かないようにしましょう。また、石油ストーブの給油や移動のときは、必ず火を消してから行ってください。



6 電気のコンセントにも気をつけて

タコ足配線をしたり、コンセント周辺にホコリがたまっていると、発火の危険性があります。器具を使わないときは、プラグをまめに抜いてください。



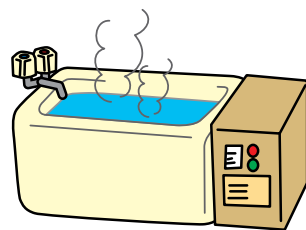
2 揚げ物料理はその場から離れないで

電話や来客などで鍋から離れるときは、コンロの火を消してから。また、燃えやすいものも近くには置かないでください。揚げカスは、完全にさましてからゴミ箱へ。



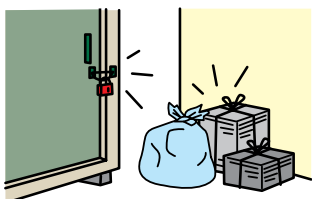
7 風呂の空だきに気をつけて

点火のたびに、浴槽の水量を確認めることを習慣づけましょう。また、点火・消火の際は必ず確認してください。日ごろから、火災・災害用に水をためておきましょう。



3 放火させない環境づくり

古新聞・雑誌の束やゴミ袋など、燃えやすいものを家の周辺に置かないようにしましょう。また、物置や車庫には、しっかりと鍵をかけてください。



8 子どもの火遊び禁止

絶対に火遊びをしないよう、子どもたちにしっかりと自覚させます。また、マッチやライターを手の届くところに出しっぱなしにしないでください。



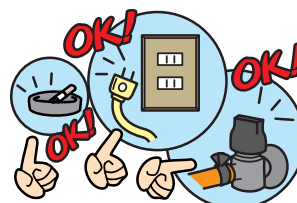
4 風の日のたき火は厳禁

たき火をするときは、消火用の水をたっぷり用意すること。また、子どもだけだったり、風のある日のたき火は、絶対にやめてください。



9 寝る前にもう一度火の点検

就寝前や外出時には、コタツや暖房器具、ガスの元栓など、一つひとつを指でさしながら消えていることを確認しましょう。



5 寝タバコやポイ捨ては絶対禁止

寝タバコはもちろんのこと、火のついたタバコの放置や、吸ったタバコを路上などに投げ捨てるのも、絶対にやめてください。



10 消火器を備えておく

万が一のために消火器を備え、簡易火災警報機を取り付けたり防火訓練に参加するなど、気持ちも一緒にひきしめておきましょう。



◆消火と避難

初期消火が重要ですが、天井まで燃え広がったら迷わず避難。あきらめて逃げる勇気も大切です。

1 火災発生！ まずやらなくてはならないこと

1 大声を出して知らせる

小さな火でも、「火事だー！」と大声で近所に知らせる。声が出ないときは、バケツなどをたたいても有効。



2 勇気を出して初期消火を

消火できる限度は、出火から3分以内。水や消火器はもちろん、毛布でおおうなど、手近にあるものを活用して。



3 脱出はすばやく

天井まで火が燃え広がったら、消火をあきらめすばやく脱出。ぬらしたハンカチで鼻と口を押さえ、姿勢を低く。



2 こんな火はこう消す

◇油鍋

水をかけない。元栓を閉め、ふたをするか、濡らしたシートなどで手前から覆う。



◇衣類

転げ回る。すぐ脱げるものは、脱いで踏み消す。



◇風呂場

ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火する。



◇石油ストーブ

ぬらした毛布などをかぶせ、その上から一気に水をかける。



◇電気製品

水をかけない。プラグを抜くか、ブレーカーを落とす。



◇カーテン・ふすま

天井に火が回る前に、カーテンは引きちぎり、ふすまは蹴り倒して消火。



3 逃げるとき

服装にこだわらない。化繊など、燃えやすい材質に注意。



お年寄り、子ども、病人を最優先に。



貴重品に執着しない。日ごろからまとめておく。



逃げ遅れた人がいるときは、消防隊にすぐ知らせる。



姿勢を低く、床を這うように。室内は壁伝い、廊下は中央を。

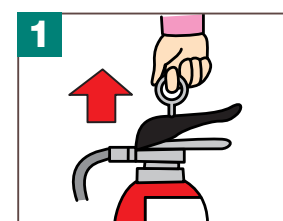


いったん逃げ出したら、再び中には戻らない。戻させない。

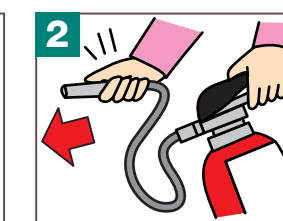


4 消火器の使い方

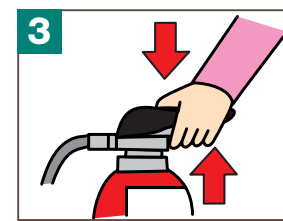
◇使い方の手順



安全ピンを引っ張って抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握り、噴射させる。

◇消火のポイント

火炎と正面から向かい合わないよう、風上から消火する。腰を落とした低い姿勢で、熱や煙を避ける。炎や煙ではなく、燃えているものにノズルを向けて、左右に振りながら消火剤を噴射する。

5 119番通報はあわてず正確に

1 火災のときの通報

- ①最初に「火事です」と火災が起こったことを知らせる。
- ②出火場所の住所を伝える。
- ③火災の内容を短く正確に。
 - ・出火の大きさ
 - ・何が燃えているか
 - ・建物は鉄骨か木造か
 - ・何階が燃えているか
 - ・逃げ遅れた人やけが人がいるか
- ④自分の名前と電話番号。



2 交通事故など救急のときの通報

- ①「救急です」と告げる。
- ②交通事故の場合は「はさまれている」など、内容をできるだけ具体的に知らせる。
- ③事故の場所。
- ④自分の名前と電話番号。

